

第18回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会

審査総評

2017年以來、二度目の建築人賞の審査を仰せつかりました。前回お引き受けした折には、「建築人」に掲載の各作品の設計者に一堂に会していただき、そこでの全作品のパネル展示とお一人ずつのプレゼンテーションによる一次審査を提案したところ、快く賛成していただき、その日のうちに現地審査対象作品の選出と、引き続き応募者全員が参加する懇親会を行わせていただきました。「建築人」に掲載の数葉の写真では、選考にはいささか心細く、お手数をおかけしたわけですが、幸いにも応募者同士の交流や、選考委員とのやりとりなども含めて、総じてご好評をいただいたと感じましたので、今般、再び選考をお引き受けするに当たって、再度その形式をお願いいたしました。仮に最後の賞にまで残れなかったとしても、参加された皆さんが何か少しでも自身の糧になるものを持ち帰っていただければ幸いと考えました。（実はその後の各地での建築賞の選考にも、この方式を取り入れさせていただいています。）

作品パネルと含めて、当日の発表を伺うと、やはり設計意図の深いところまで理解することができ、大いに助けられました。作品の所在は問わないということで、府外の各地に立つものも少なからず含まれましたので、その土地土地の風土や周辺環境などを含めて作品との関係に注目して選考に当たりました。結果、近畿圏のみならず長野県や四国の愛媛からの作品を含め、一般部門の中から7作品

を選び、実地に作品の見学をさせていただきました。前回の時は住宅部門についても現地を訪問したのですが、コロナ禍以降、住宅は現地訪問の対象としていないとのことで、残念でしたが、断念いたしました。現地を見ていないため、いささか心もとなく感じております。

全作品を通じての印象は、一般部門の作品がオフィスや商業施設に始まり、医療・福祉施設、大学、宗教施設や葬祭場、宿泊施設など非常に多岐に渡り、規模も都市的なスケールのものから一軒の店舗の小さな改修まで多様なものがあり、総じてバラエティに富んでいると感じました。最終の選に残った作品については、それぞれの選評に回すとして、その他の作品の中から印象に残ったものを挙げると、三つの切妻屋根が連続し、礼拝堂を日常的に開こうという《京都女子大学A校舎》、山の景観に呼応して屋根の流れを相互に組み合わせた《ピカソ美化学研究所駒ヶ根研修センター》、タテヨコのリズムの異なるストライプのアンサンブルが川面に映える医療コンプレックス《Nakanoshima Cross》などが周囲の景観との絶妙な応答を感じさせたほか、住宅のスケール感を持つ児童養護施設《大阪西本願寺常照園児童養護施設》、現代の湯治宿としての落ち着いた佇まいを持つ《とくなが荘 OKUZASHIKI》、サテライトオフィスと社員の保養施設を兼ねた《M-BASE IN GOSHIKIHAMA》、木造古屋を改造して研究施設とした《一般社団法人環境文化史創造研究所本部》などが、

いずれも居心地の良い滞留の空間を生み出していました。住宅部門は全体の作品数が少なかったのですが、年間最多掲載数のマニエラ建築設計事務所の作品群が圧倒していました。

一般部門の現地審査は、東が滋賀県から西は愛媛県までの2府2県におよび、訪問は延べ3日間に及びました。ここに選ばれたものだけでも内容は様々で、ひとつの物差しで測れるものではありませんが、顕彰によって作者（設計者だけでなく依頼主や施工者を含みます）をエンカレッジすることがもたらす社会的価値については、その意義を慮ることができると考えました。世に新たな一石を投じる、意欲的で、創意に満ちたものを選んだつもりです。これらの建築が示す、建築の将来、建築士像の将来がより豊かで実り多いものとなることを祈念しています。

最後になりましたが、一次審査の運営や、現地審査の手配や遂行、訪問先との連絡に尽力していただいた事務局の皆さんにこの場を借りて感謝を申し上げるとともに、快く訪問を受け入れていただいたクライアントの皆様にも深甚の謝意を表します。また何よりもパネルの制作をはじめ、プレゼンテーション、現地でのあらためての説明など、多くのご苦労をおかけした設計者の皆さん、どうもありがとうございました。今後の益々のご活躍をお祈りします。



建築人賞新人賞記念盾



建築人賞記念盾

グラスアーティスト 佐久間 靖 作



審査委員長 古谷誠章

早稲田大学 栄誉フェロー・名誉教授
NASCA代表

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年 早稲田大学大学院博士前期課程修了
1986年 文化庁芸術家在外研修員として、スイスの建築家マリオ・ボッタ事務所（～1987年）
1994年 （有）ナスカ（NASCA）設立
1994年 早稲田大学理工学部助教授（～1997年）
1997年 早稲田大学理工学部教授（現・創造理工学部教授）（～2025年）
2017年 第55代 日本建築学会会長（～2019年）
2020年 早稲田大学芸術学校校長（～2024年）
2021年 東京建築士会会長（～2025年）
2024年～ 日本建築士会連合会会長
2025年 早稲田大学栄誉フェロー・名誉教授

建築人賞 立命館先端クロスバースイノベーションセッションコモンズ／グラスルーツイノベーションセンター

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／滋賀県草津市 敷地面積／590,050㎡
竣工年月／2025年5月 建築面積／2,772㎡
用途／大学（研究施設） 延床面積／4,245㎡
構造・規模／S造 写真／母倉知樹
2階建て

【選評】
立命館びわこ・くさつキャンパスの顔となる先端的な社会連携の拠点となる施設であり、既存のキャンパスレイアウトの軸線や、周囲の風景などと呼応する45度軸を導入したことで、通勤・通学する歩行者に対し、単調で長いアプローチの道中に大屋根の生み出す陰影が、心地よい空間のリズムを生み出している。内部空間に対しても、この斜めグリッドの効用で空間に抑揚が生まれ、各所に交流や溜まりのスペースが形づくられている。素材の選択やディテールを含めてとても充実した作品である。



建築人賞 OCCHIO

設計／マニエラ建築設計事務所
施工／ケイ・アイ・エス

建築位置／兵庫県芦屋市 敷地面積／410.76㎡
竣工年月／2024年3月 建築面積／146.90㎡
用途／専用住宅 延床面積／356.14㎡
構造・規模／木造＋RC造 写真／松村芳治
地下1階、地上2階

【選評】
芦屋の斜面地形を生かした明快なスキームが秀逸である。簡にして要を得た断面の構成によって、外部からの視線の干渉を避け、しかも人に疎外感を感じさせない開放感のある表情を持たせ、上界の内部から周囲を遠望する見晴らしを手に入れている。周辺の石積み擁壁に同調するコンクリート打放しの基壇部と、横一文字の開口を持つ軽快なホワイトボックスのコントラストも絶妙な感じである。外部に閉ざしているながら、内部の暮らしの気配をほんのりと滲み出すところに好感が持てる。



建築人賞新人賞 観櫻居

設計／宮本康平建築設計事務所＋若林広幸
施工／人見建設

建築位置／滋賀県高島市 敷地面積／436.92㎡
竣工年月／2025年4月 建築面積／135.80㎡
用途／専用住宅 延床面積／125.29㎡
構造設計／ARGO 写真／松村芳治
構造・規模／木造 地上1階

【選評】
琵琶湖畔に建つ木造平屋、休日などをここで過ごすための別邸である。旧街道側のアプローチは思い切って寡黙な表情として、内部に踏み入れた途端に、湖水の風景までの圧倒的な視線の抜けを感じさせる、巧妙な仕掛けとなっている。閉ざされたように見える正面だが、玄関上部に片流れで上っていく天井面や、そこに切り取られた空を僅かに予感させているところが急所になっている。この登り天井は屋内でも空間をダイナミックなものにしており、ここでも取りこまれた空が効果的だ。



建築人賞奨励賞 三井ガーデンホテル京都三条プレミア

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／京都市
開業年月／2024年7月
用途／ホテル
構造・規模／鉄筋コンクリート造
地下1階、地上5階
敷地面積／2,715.89㎡
建築面積／2,096.63㎡
延床面積／10,514.18㎡



写真／母倉知樹

【選評】三条通りに北面する奥に深い敷地に立つホテルで、近隣には近代洋風建築が建ち並ぶ。秀逸だと思うのが、回廊がロの字に取り囲む二つの中庭を前後に配置して、パブリックな表とややプライベートな奥を巧みに創り出したことである。光庭としてはかなり深さがあるが、平面形とのプロポーションがよく、底面に置かれた植栽が落ち込んでくる光を受けて第二の光源となっているのも効果的である。奥行きを持ったアプローチも、京都の通り庭の翻案として、ゲストに情緒を感じさせる。

建築人賞奨励賞 京都実践倫理会館

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／京都市
竣工年月／2024年12月
用途／研修所
構造・規模／RC造
地上3階
敷地面積／850.78㎡
建築面積／497.03㎡
延床面積／1,392.17㎡



写真／古川泰造

【選評】毎朝会員が一堂に集まる催しが開かれるほか、折々にイベントなどに集う会員交流のための施設。ほぼ半世紀前に竣工した既存建築の、創造的改修である。一見無表情に見える外観だが、よくよく見ると朴訥として不思議な愛嬌を感じるファサードでもある。一歩中庭に足を踏み入ると、そこは天空を切り取る立体的な吹き抜けキューブで、刷新された透明感のある空間となっている。圧巻は2階の広間を中庭に繋ぐ、既存柱を撤去した広間スペースで、作者の意気込みを感じた。

建築人賞奨励賞 北小路 Bldg.

設計／プリヤデザイン一級建築士事務所
施工／Arcc

建築位置／京都市中京区
竣工年月／2025年5月
用途／事務所併用住宅
構造・規模／RC造
3階建
敷地面積／165.23㎡
建築面積／126.24㎡
延床面積／359.72㎡
写真／松村芳治



【選評】旧市街地の景観条例に沿って高さの調整された庇の重なりと、その背後にある外壁の退き、両袖に立つ小叩きの壁のアンサンブルが、この建築の端正でかつ構造的な力の流れを感じさせる顔立ちを創り出している。そこに加わる動的な光や風がもたらす表情の変化が絶妙である。機能構成は事務所と家族の住まいから成り立っているが、奥にある中庭を介して、相互が付かず離れずの関係に置かれるプランニングも奏功している。随所に凝らされたディテールや素材の妙も秀逸だった。

建築人賞奨励賞 Ceremony Hall『kanon』

設計／YIA イシウエヨシヒロ建築設計事務所
施工／建相

建築位置／愛媛県松山市
竣工年月／2025年8月
用途／葬祭場
構造・規模／木造
地上1階
敷地面積／498.64㎡
建築面積／177.14㎡
延床面積／151.42㎡
写真／しんめんもく
後藤健治



【選評】今日、故人に近い近親者のみで執り行われる家族葬が増えている。しかしこれまでの葬祭場には、それに相応しい空間は用意されていなかった。このごちんまりとした葬祭場は、故人が人生の終わりに引き合わせた家族が、ともに一兩日を過ごし、故人の思い出を語りながら最期の別れに臨む、ひとときの住まいのような感覚があった。開放的な建築と、遠くの緑が呼応する植え込みが、この場所をさらに快適で居心地の良い場所にしてている。この構想を設計者から提案したと言うのにも感心した。

建築人賞奨励賞 森との会話をたのしむ家

設計・監理／HTA デザイン事務所
施工／岡本工務店

建築位置／兵庫県宝塚市
竣工年月／2024年5月
用途／専用住宅
構造・規模／木造
2階建
敷地面積／245.60㎡
建築面積／120.94㎡
延床面積／237.98㎡



写真／母倉知樹

【選評】見晴らしの良い眺望を活かして、春夏秋冬に周囲の自然を感じられるような住まいである。プライバシーを保つために前面道路側には閉ざされた表情を持たせ、一転して内部では、森の木々を間近に感じられるよう、インナーバルコニーや、大型のガラス戸を設けて、リビングを一挙に屋外へとつなぐ、大きなコントラストが生まれている。単純明快な構成ながら、階段や玄関の要所にトップライトなどからの光が届き、重層感のある豊かな内部空間が形成されている。

建築人賞奨励賞 桃山の家

設計／プリヤデザイン一級建築士事務所
施工／サカヨシ建設

建築位置／京都市伏見区
竣工年月／2024年2月
用途／事務所付長屋
構造・規模／木造
2階建
敷地面積／220.14㎡
建築面積／102.47㎡
延床面積／177.95㎡



写真／松村芳治

【選評】用途は事務所付き長屋と表記されているが、将来的に親世帯部分を別個に事務所としても利用可能となるように計画された親子世帯が住まう二世帯住宅として設計されていることから、住宅部門の作品として審査した。2階部分がやや迫り出すような断面計画で、上下階ともに極めて開放的な空間でありながら、南側からの夏の日射をうまく遮蔽し、快適な居住空間を生んでいる。高低差のある前面道路との間を緑あふれる登り庭の法面としたことも、内外を繋ぎつつ仕切る効果を生んでいる。

建築人賞佳作 ー繋ー tsunagu

設 計／藤本高志建築設計事務所
施 工／山佑建設

建築位置／大阪府豊中市
竣工年月／2025 年 1 月
用 途／飲食店（弁当屋）
構造・規模／W 造（在来工法）
地上 2 階
延床面積／25.93㎡（改装部分）



写真／高橋菜生写真事務所

【選評】かなり廃れた小さな商店街の空き店舗を、次に繋がるようにとの願いを込めて、せめて取り壊しまでの間だけでも弁当屋として営業をしたいという要望に応えて、ミニマムな改修が計画された。基本的には店頭売りだけの小さな店舗であるが、木のスノコ状の外壁の一部が、蔭戸のように開放され、営業中のサインともなる。軒下に生まれた路傍の小空間が、人を引き寄せ、人と人を繋ぐ空間となっている点が好ましく見える。隣接する居酒屋とも相まって、付近に人の気配を感じさせるものとなった。

建築人賞佳作 MISALIGN and LIGHT

設 計／マニエラ建築設計事務所
施 工／西友建設

建築位置／兵庫県西宮市
竣工年月／2024 年 12 月
用 途／専用住宅
構造設計／海野構造研究所
構造・規模／RC 造
地下 1 階、地上 2 階
敷地面積／334.75㎡
建築面積／187.50㎡
延床面積／375.61㎡



写真／松村芳治

【選評】立地は良好な斜面住宅地だが、周囲には戸建だけでなくマンションなども建っており、庭への外からの視線は避けられない。しかしながらテラスを家族団欒の場にとの要望があり、テラスから空への開放感と、近隣からの視線の遮断との兼ね合いが大きな課題となった。平面的にずらして配された二重の浮き壁によって、抜けと遮蔽を見事に両立させていて、清々しさがある。テラスとリビングも見事に一体化しており、屋内に居ながらにして、テラスの開放感をも享受することができる。

建築人賞佳作 東浦の家

設 計／井上久実設計室
施 工／淡路工舎

建築位置／兵庫県淡路市
竣工年月／2025 年 6 月
用 途／1 戸建て住宅
構造・規模／木造
平屋建て
敷地面積／1,350.18㎡
建築面積／159.80㎡
延床面積／144.87㎡



写真／富田英次

【選評】大阪湾を一望する淡路島の高台に位置する住宅である。一枚の切妻屋根に覆われているが、居室はスリットを介して分節化されており、その隙間を光や風が通り抜ける爽快な建築となっている。風は床下にも流れて室内に循環され、室内の空気環境にも良い効果をもたらしている。分節化された諸室が少しずつ雁行することで、パブリックからプライベートの空間がゆるやかに繋がって、空間にグラデーションが生まれている。周囲の島の風景にもおおらかに溶け込み静かに佇んでいる。

建築人賞佳作 イーハートブほうしん風の家

設 計／井上久実設計室
施 工／ヒロタ建設

建築位置／大阪市
竣工年月／2025 年 3 月
用 途／障害者グループホーム
＋有料老人ホーム
構造・規模／鉄骨造
4 階建て
敷地面積／375.62㎡
建築面積／245.41㎡
延床面積／915.54㎡



写真／富田英次

【選評】同じ設計者が掲載した作品群は、住宅から研修施設、福祉施設までバラエティに富んでおり、それぞれに魅力的な特徴があったが、この知的障害者のグループホームとその両親らのための有料老人ホームの組み合わせは、現行法規の想定しない複合施設で、障害者が高齢化し、その親御さんも高齢化する現状の中で、これを成立させることの意義を社会に訴えかける作品となっていることが特筆に値する。依頼者と長く関わり続けている設計者だからこそ、初めて可能となった福祉施設の意欲作である。

建築人賞佳作 愛猫と暮らすセミコートハウス

設 計／大西憲司設計工房
施 工／笹原建設

建築位置／大阪府門真市
竣工年月／2025 年 6 月
用 途／専用住宅
構造・規模／木造
平屋建
敷地面積／373.61㎡
建築面積／124.41㎡
延床面積／116.47㎡



写真／福澤昭嘉

【選評】不整形の敷地形状を生かして、前庭を含む5つの庭と居室群を巧みに納めている。変化に富んで猫でなくても楽しく過ごせそうな空間構成である。床材や天井材なども様々で、さまざまに雰囲気異なる居場所が生まれている。メインの吐き出しの開口部だけでなく、随所にある高窓や天窓などからの光も、空間に変化を生み出している。随所に庭が配置されたことで、一軒の住まいに、離れの感覚が生まれ、内外の空間が綾織のように組み合わせられているのが秀逸である。

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、2026 年 4 月には第 742 号を数えました。本会の会員にとって重要な情報提供を行うとともに、建築作品発表の機会を設け、建築技術の普及や会員の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は「建築人」の GALLERY 頁に掲載された全作品の中から特に機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰することで、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、「建築人」のプレゼンスをより高めていくことを意図して創設された賞です。

●候補作品と審査経過

会誌「建築人」2025 年 1 月から 12 月の Gallery に掲載された建築作品 36 点の中から、古谷審査委員長に選定頂きました。古谷審査委員長は第 6 回～第 10 回建築人賞の審査委員長もご担当いただき、今回で 6 回目となります。

一般部門は、本年も共同住宅から教育系施設、ホテル、オフィス、葬祭場まで多様な建物用途があり、どれもが建築主の要求と社会的課題に対し、設計者がそれ

に応えようとする強い意志が感じられました。現地審査は関西圏に留まらず、愛媛まで及ぶ審査となりました。住宅部門は現地審査を行わず、全作品書類審査となりました。

40 歳以下の若い建築士の方を対象とする『新人賞』は 4 回目を迎え、住宅部門で最終審査に 1 作品の候補が残りました。『建築人賞』は設計者だけでなく、建築主や施工者も表彰の対象となります。建築

人賞を通じて、多くの方々に建築やまちに魅力と価値を感じて頂き、建築文化の発展と人々の快適な暮らし創りに繋がることを祈念しています。

次回も引き続き古谷審査委員長によって建築人賞の選奨を行って頂く予定です。会員の皆さまには、本年も「建築人」の Gallery に多くの作品を掲載頂きますよう、お願い致します。

建築情報委員会委員長 武藤優哉

実施要項及び経過

- 対象作品 会報誌建築人 2025 年 1 月号～2025 年 12 月号「GALLERY」掲載作品 36 点
- 審査 第一次審査（36 点から●点選出） 第二次審査（14 点選出）
- 表彰式 2026 年度定時総会・式典 席上 日時／2026 年 5 月 20 日(水) 会場／KKR ホテル大阪 3 階
- 入賞作品

第 18 回 建 築 人 賞

一 般		住 宅	
◎ 建 築 人 賞		◎ 建 築 人 賞	
立命館先端クロスバースイノベーションcommons／ グラスルーツイノベーションセンター	2025 年 11 月号掲載	OCCHIO	2025 年 3 月号掲載
		◎ 建築人賞新人賞	
		観 櫻 居	2025 年 8 月号掲載
◎ 建築人賞奨励賞		◎ 建築人賞奨励賞	
三井ガーデンホテル京都三条プレミア 京都実践倫理会館 北小路 Bldg. Ceremony Hall 『kanon』	2025 年 2 月号掲載 2025 年 4 月号掲載 2025 年 11 月号掲載 2025 年 12 月号掲載	森との会話をたのしむ家 桃 山 の 家	2025 年 4 月号掲載 2025 年 12 月号掲載
◎ 建築人賞佳作		◎ 建築人賞佳作	
－ 繫 － tsunagu イーハトーブほうしん風の家	2025 年 6 月号掲載 2025 年 7 月号掲載	MISALIGN and LIGHT 愛猫と暮らすセミコートハウス 東 浦 の 家	2025 年 4 月号掲載 2025 年 8 月号掲載 2025 年 11 月号掲載

建 築 人 賞 設計者に賞状および記念盾を授与、建築主・施工者に賞状を授与
建築人賞新人賞 設計者に賞状および記念盾を授与、建築主・施工者に賞状を授与
建築人賞奨励賞 建築主・設計者・施工者に賞状を授与
建築人賞佳作 建築主・設計者・施工者に賞状を授与